

第34回BMS定例会総会

BMS研究会会長

エーザイ・安全性研究所 羽倉昌志

2005年7月8日

平成15年度～16年度BMS研究会幹事

会長：羽倉昌志(エーザイ株式会社)

庶務幹事：須井 哉(財団法人食品安全センター)

会計幹事：小椋正造(財団法人化学物質評価研究機構)

幹事：中村真人(社団法人日本油料検定協会)

幹事：西郷和彦(株式会社新日本科学)

幹事：田中 仁(財団法人食品農医薬品安全性評価センター)

幹事：佐藤精一(日本たばこ産業株式会社)

幹事：斉藤 賽(キッコーマン株式会社)

幹事：鐘尾美江子(光栄テクノサービス株式会社)

研究会活動(1)

第30回BMS定例会(2003年7月11日,京都) 世話人:松村茂夫(武田薬品)

総会

共同研究進捗状況(ヒトS9を用いたAmes試験, YG株を用いたAmes試験)

教育講演:「ハイスループット遺伝毒性試験」森田 健先生(グラクソ・スミスクライン)

「光遺伝毒性試験法について」田中憲穂先生(食薬センター)

「中国での遺伝毒性試験事情」加藤雅之会員(日本生物科学センター)

第31回BMS定例会(2003年11月25日,津) 世話人:中村真人(油料検定協会)

総会

共同研究進捗状況(ヒトS9を用いた変異原性試験, YG株を用いたAmes試験)

教育講演:「環境化学物質のリスク評価のためには, 現行遺伝毒性試験に何が欠けているか?」鈴木孝昌先生(国立衛研)

第32回BMS定例会(2004年7月9, 10日, 静岡県富士山麓)

世話人:須井 哉(食安センター), 佐藤精一(日本たばこ産業)

総会、Ames試験Q&A、今後のBMSの活動方針の議論、

今までに行われたBMS共同研究の紹介

第33回BMS定例会(JEMSの4分科会合同定例会)(2004年11月30日,長崎)

総会、今後の分科会の活動方針の議論

研究会活動(2)

1. アンケート調査の実施
 - (1) BMSに対するニーズを知り, ニーズにあった活動を行うため。
 - (2) 会員が望んでいる共同研究テーマを知るため。
 - (3) Ames試験に関する疑問点 Ames試験Q&Aの作成

2. 共同研究
 - (1) ニトロアレーン, 芳香族アミン等の化合物に高感受性を示すYG株を用いた研究(実験終了)
 - (2) ヒトS9を用いるAmes試験 (Mutagenesis, 20, 2005)

3. シンプル且つ活動しやすいように会則の改正(2005年)

4. 今後のBMSのあり方についてのJEMSへの答申案提出(2005年)し、
2005年春季評議員会で論議 継続審議

JEMS・BMSの沿革

1986年に労働省(現:厚生労働省)が実施した変異原性試験の精度管理試験の結果,試験実施機関の間に差(変異誘発物質に対するレスポンスの差)があることが判明。この差をなくすことを目的に,「Ames試験に限定した試験実施上諸問題を,同様の試験を実施している多くの研究機関の中で討議し,質的な向上を図る会」として設立された。

1988年6月に第1回定例会開催

以後,年2回の定例会を実施(うち1回は日本環境変異原学会の開催日)

1995年6月に日本環境変異原学会の分科会として承認された。

微生物変異原性試験研究会 (BMS研究会)

目的

微生物を用いる各種変異原性試験について検討し、この分野の発展に努めると共に、日本環境変異原学会の発展に寄与すること。

名称

日本環境変異原学会・微生物変異原性試験研究会 (The Environmental Society of Japan/Bacterial Mutagenicity Study Group. 略称: JEMS・BMS研究会)

会員数

約70名(2005年7月現在)

BMSの基本活動方針

会員のニーズに基づく自主的勉強会

情報収集・交換の場，人的ネットワークを形成する場

1. 微生物変異原性試験担当者への最新の研究成果を含む知識の移譲
 - (1) 講演会の実施
 - (2) 微生物変異原性試験Q&Aのデータベース化
 - (3) 過去のBMS共同研究のまとめ(過去のBMS共同研究で誌上发表されていない共同研究データをまとめ，home pageへの掲載，あるいは「環境変異原研究」の資料や短報にできるだけ掲載。
2. 信頼性の高い微生物変異原性試験技術の普及
定例会等で勉強会の実施や精度管理の窓口(今後の検討課題)
3. 微生物変異原性試験に関わる未解決の課題を解決
相当数の会員から共同研究を行いたいというニーズも高く，会員内での自主的共同研究については積極的にこれを支援・奨励

共同研究(終了分)

- 1 . 試験材料の検出感度に及ぼす影響 Mutat. Res., 272 (1992)
- 2 . 前培養条件の検出感度に及ぼす影響 Mutat. Res., 272
(1992)
- 3 . 背景データの解析と管理
- 4 . TA102,TA2638, pKM101導入WP2株などの有用性の検討
Mutagenesis, 10 (1995), Mutagenesis, 11 (1996)
- 5 . 至適前培養条件の簡易検討法 Mutat. Res., 334 (1995)
- 6 . プレインキュベーション法の試験条件
- 7 . 大腸菌WP3101P ~ 3106P株を用いた突然変異スペクトルの解析
に関する研究 環境変異原研究, 25 (2003)

BMS研究会の将来の共同研究案

1. Ames試験のさらなる向上を目指し, 共同研究等を通じて技術的(手法も含めて)な検討課題を解決していく。
2. Ames試験結果のデータベースを構築し, 構造活性相関検索に役立てる。
3. 少量新規化合物を対象とした大量処理型Ames試験法を開発し, 企業でのスクリーニングに貢献する。
4. 特定な化合物群に特異的に反応を示す新規試験法の開発
5. ヒトS9あるいはヒト代謝酵素遺伝子を導入した微生物を用いた試験によるヒトでの安全性評価に有効なデータを提供する。
6. 新しい領域の研究(例えば micro array)に踏み出す。

平成17年度～18年度BMS研究会幹事

会長：加藤雅之（日本生物科学センター）

平成17年度庶務幹事：須井 哉（食品安全センター）

平成18年度庶務幹事：中村真人（日本油料検定協会）

会計幹事：田中 仁（食品農医薬品安全性評価センター）

幹事：中嶋 圓（食品農医薬品安全性評価センター）

幹事：佐藤精一（日本たばこ産業株式会社）

幹事：西郷和彦（株式会社新日本科学）